



来店者に花の種を配布 和賀町・岩崎・横川目支店で「支店統合記念」



来店者に花の種を配布する支店窓口職員(左)

和賀町・岩崎・横川目支店は6月15日、同支店(北上市和賀町)で支店統合記念として、来店者に花の種を配布しました。

17種類の花の種を200セット用意し、支店窓口職員が来店者に手渡ししました。来店した橋キヨ子さん(73)は「花の種をいただきうれしい。家の庭に植えて育てたい。支店が統合して初めて来店したが、今後も利用していく」と笑顔を見せました。

齊藤金浩支店長は「新しい拠点として認知してもらい、来店者にまた来たいと思ってもらえるような活動の一つとして実施した。今後もこのような取り組みを続けていく」と話しました。

地域の園児に花育活動 花植えを通して園児と支店職員が交流



支店職員に教わりながら、丁寧に花を植えるやさわこども園の園児たち

矢沢支店の職員5人は、6月3日にやさわこども園(花巻市矢沢)、4日に島保育園(同市東十二丁目)を訪れ、花育活動を行いました。

やさわこども園では園児30人と、島保育園では園児17人とベゴニア60株を植えました。本館園博支店長は「今年も皆さんと一緒に交流したいと思い、お花を持ってきました。小さい種から大きく育ったお花を、愛情込めて植えてください」とあいさつ。園児たちは、支店職員から植える時の注意点を教わりながら、丁寧に花を取り出し、プランターに植えました。

同活動は、地域との結びつき活動として6年前から行っています。

父ちゃんたちいつもご苦労さま 湯口支店で「お客様感謝デー」



支店窓口職員からプレゼントを受け取る来店者(左)

湯口支店は6月19日、父の日に先けて、来店した男性にメッセージ付きシールを貼り付けた栄養ドリンクをプレゼントしました。

支店窓口職員が日頃の感謝の気持ちとともに手渡すと、思わぬ贈り物に素敵な笑顔を見せました。受け取った男性は「思わぬプレゼントは、うれしい気持ちになる。今後も支店を憩いの場にしてほしい」と話しました。

同支店では、母の日にも来店した女性客にクッキーをプレゼントしました。今後もイベントに合わせて「お客様感謝デー」に取り組み、支店利用者とのコミュニケーションを図っていきます。

地域の農業の魅力感じて 二子小学校と湯口小学校で生産者が授業



実物を手に説明する高橋組合長(二子小学校)

生産者やJA職員などは、小学生に授業を通して地域の特産品や農業を伝えました。

6月17日は、北上市立二子小学校(同市二子町)を二子さといも生産組合の高橋豊組合長やふたごいものこ母ちゃんの会の及川律子会長、JA職員など計6人が訪問。5年生37人は、歴史、特徴、育て方、料理・栄養の4グループに分かれ、地域の宝である「二子さといも」を多方面から学びました。各グループ児童からの質問に答える形式で、児童からは同市で「二子さといも」が作られるようになった理由やおすすめの料理など、さまざまな質問が上がりました。

料理・栄養グループで学習した小原紗英さんは「二子さといもの魅力を再発見することができた。いものこ汁の粘り気があるところが大好きで、秋になると食べたくなる」と笑顔を見せました。育て方グループを担当した高橋組合長は「大人になっても二子さといもを食べ続けてほしい。そして、人にも勧めたい」と話しました。



湯口地区の米づくりを伝える平賀取締役(湯口小学校)

と話しました。

6月18日は、花巻市立湯口小学校(同市円万寺)を地元で米や麦、大豆などを生産する(株)フロンティア上根子上の平賀敏男取締役やJA職員の計4人が訪問。5年生25人に、米について教えました。JA職員は、同市の米の作付け面積や出荷量、栽培品種、出荷先などを説明。平賀取締役は、湯口地区の耕地面積や「ひとめぼれ」の栽培が多いことなどを伝えました。

祖父母が米を栽培している照井ひなたさんは「聞いたことは知らなかったことができた。もつとお米について知りたくなったので、おじいちゃんに聞いてみようと思う」と声を弾ませました。平賀取締役は「農家は安全安心にこだわり、手間暇かけて一生懸命に米を作っている。子どもたちには米1粒でも大事にし、ご飯をいっぱい食べて成長してほしい」と願いました。

子ども用マスクを手作り たすけあいの会宮野目支部と女性部宮野目支部3Rグループ



マスクを贈呈する磯村会長(右から2番目)と高橋支部長(右)

たすけあいの会宮野目支部と女性部宮野目支部3Rグループは6月19日、地元の宮野目保育園に手作りマスクを贈呈しました。

磯村栄子会長と高橋美紀子支部長が同園を訪れて園児に手渡しました。マスクは、両団体の有志約10人が集まり、2日間で50枚を作成。生地には、手ぬぐいやハンカチなどを活用しました。生地を薄めにして夏でも蒸れないように工夫したほか、しつかり顔が覆われるよう立体マスクに仕上げました。

磯村会長は「子どもたちが喜んでくれてうれしい。これからマスクは必需品になるため、子どもたちにはマスクに慣れてほしい」と話しました。